

連載：原点

学びの過程を大切に

印旛明誠高等学校 福山 秀一

私は教員になる前に、システムエンジニアとして民間企業に勤務していました。そこで社会人経験を積み、コンピュータの知識と技術を身につけ、資格を取得するとともに、他者を尊重し、協働するためのコミュニケーション能力を身につけることが社会人としてのスキル向上を目指す上で、はるかに重要であることを学ぶことができました。上司や同僚から「常に考えて行動すること」、「正しい努力をすること」、「結果だけでなく過程にも目を向けること」の大切さを教わり、目先のことだけを見るのではなく、目的や理由をしっかりと掌握した上で仕事をすることが大切であることを経験を通じて知り得ることができました。

民間企業を退職して教員になり、現在は印旛明誠高校で1年生の授業を担当しています。授業を進めていく上で心掛けていることがあります。それは、結果だけではなく過程にも目を向けることを大切に、学びの過程に留意した教科指導を行うことです。数学は答が1つだけのことが多く、その答を求めることに意識を持つ傾向が強いですが、結果にたどり着けばそれでいいということではなく、どのようにしてその結果を導いたか、その結果にたどり着くまでにどのような手順を踏んだかということを意識して授業を行うことに努めています。そのことで、生徒にわかったこと、できたことなどの達成感を多く持たせ、自己肯定感を向上させることを目指しています。

印旛明誠高校の教員として4か月ほど経ちました。この期間を振り返り、心掛けていることを実践できているかという点、そうでないことが多かったと感じています。授業前に計画していた内容どおりに授業を進めることができなかったり、想定外のことが起きたときに対応することができなかったり、途中過程をあまり重要視せずに授業を進めたりと、不十分な点が多かったです。教科書の内容を丁寧に教えればそれでいいというのではなく、教科書の内容をどうやって生徒が理解しやすいようにかみ砕いていくかという視点での教材研究が不足していたと感じています。

それでも、教科指導を通じて、生徒が「授業がわかりやすい」と言ってくれたり、定期考査前に質問に来てくれたりと、少しではありますが生徒との信頼関係を築くことができたと感じています。今後もこの信頼関係を継続することができるように、学びの過程を大切に授業を心掛けていきます。また、自らの過去の経験を伝えることで、生徒に将来に向けた明確な目標を持たせるとともに、それに向けて充実した学校生活を送るための手助けをしながら、私自身も生徒や他の先生方から多くのものを学び、生徒とともに成長していきたいと思えます。